

# すくらむ

かわさきの男女共同参画情報誌



vol.  
**71**  
2022.3

## 国際女性デー 世代を超えて

持続可能な明日に向けて、ジェンダー平等をいま



# 国際女性デー 世代を超えて

## 持続可能な明日に向けて、ジェンダー平等をいま

3月8日は国際女性デーです。国際女性デーは、北米とヨーロッパ全域で20世紀初頭に現れた労働運動に端を発し、1975年(国際婦人年)には、国連がこの日を「国際女性デー」と決めました。2022年のテーマは「持続可能な明日に向けて、ジェンダー平等をいま」。持続可能な未来を築くため、世代を越えた活動が求められています。

すくらむ21では、さまざまな世代をつなぐ事業として、「すくらむ21 シネマ&トーク」と「インターンシップ」を実施しました。今回の通信では、それぞれの事業の様子をお伝えします。



### 🎬 すくらむ21 シネマ&トーク 🎬

#### おおよそ70 表現する女たちから 21世紀をゆくそよさんへ

2021年12月10日(金)、すくらむ21シネマ&トークを開催いたしました。ドキュメンタリー映像「おおよそ70 表現する女たちから 21世紀をゆくそよさんへ」の上映と、企画者でありインタビューの聞き手である麻鳥澄江さんと長井八美さんによるスペシャルトークの2本立てで実施し、当日は33名の方にご参加いただきました。質疑応答も大変盛り上がり、盛況のうちに終了しました。

スペシャルトークでは、2021年7月に逝去されたシンガーソングライターの中山ラビさんの曲『わかれ』を流し、みんなでその歌詞の世界に浸りました。麻鳥さんは、この曲を「家出の歌」と言います。これを聞いた時に「私も、つて思った」と、麻鳥さんと中山さんが誘い合う関係になるきっかけの曲だったそうです。「いろんなものをそれぞれ背負っていた。そういう人たちが仲良くなった。」と長井さん。まさにシスターフッド、ちがいを乗り越えて連帯していくことの強さを感じました。

おふたりはレディース・ボイス社として、かつて銀座で「3ポイント」という喫茶店とオープンスペースをさせてい



この映像制作のきっかけとなったのは、2017年9月全国各地から400人の女たちが集まった「おおよそ70のおんなたち これからが面白い!」と名付けられたイベント。

約50年前、世界中のあちこちで自分らしく生きたいと希求する女たちの思いがさまざまなムーブメントを生みだした。熱い思いを持ち続けて生きて来たその姿はみんなしなやかで力強い。

ここに登場するのは、その真っ只中で自分にとっての真実を求めて来た9人の表現者たち。

この9人は今も活動を続けるたくさんの方たちのほんの一握りにしか過ぎない。等身大の姿と思いを次の世代に伝えたい。

出演者：ヨネヤマママコ、笹本恒子、中山ラビ、遠藤知子、中山千夏、松本路子  
劇団青い鳥(天光真弓、芹川藍、葛西佐紀)、波岡そよ

聞き手：天衣織女、麻鳥澄江、長井八美

監督・構成・撮影・編集：天衣織女

製作・著作：株式会社青い鳥創業



ました。銀座松屋の前にあるビルのオーナーから「好きなことをやらないか？女性が気楽に居られる場所がよい」と声を掛けられ、そのビルの2階の広い空間を企画・運営することになったそうです。3ポイントを舞台に、夜の銀座でロックコンサートを開催したこともあったそう、なんとも豪快なエピソードです。日比谷野外音楽堂に3,000人ももの観客が集まった「女による、女のためのコンサート」である「魔女コンサート」のお話もありました。

参加者からも「トークのおふたりも素敵で刺激になりました。若い方へのメッセージとして、さらに続編を期待しています。コロナ禍で女性の生きづらさが増している今こそ、がんばって生きていらした人生の先輩のメッセージが勇気を与えてくれると思います(60代)」「麻鳥さんと長井さんのやりとりから、深い結びつきが伺えました。女同士の絆というか、つながりがいいですね(50代)」などの感想をいただき、映画とトークを通して多くの人にメッセージが届いたようです。

おふたりは、二人の関係を「近づいたり、離れたたり、そしてまた近づく。めぐり合い続ける。」と話します。そんなおふたりの関係が見えるスペシャルトークの時間でした。



▲「魔女コンサート」の掲載ポスター。イラストは、イラストレーターの山口はるみさん。

## ウーマン・リブや出演者に関連する図書資料を展示

会場にはイベントに関連する書籍を展示しました。今回はその一部を紹介します。



### すくらむ 21 で読めます & 借りられます ~ 4階・情報提供室のご案内 ~

- 開室時間 9:00 ~ 21:30 (貸出は 19:00 まで)
- 貸出方法 ご希望の書籍を持って、1階窓口までお越しください。  
※お名前、ご住所を確認できる書類(保険証、運転免許証、学生証等)をご提示ください。  
毎月の新着図書は、1階・第一交流室に展示しています。ぜひご利用ください。



すくらむ 21 では、毎年大学の夏季休業期間中にインターンシップ生の受け入れを行ってインターンシップの研修の一環として、川崎で活躍する2つの団体のみなさまにイン

## 団体名

### 川崎の男女共同社会をすすめる会

#### 活動のきっかけ

1975年の国際婦人年に合わせて、「国際婦人年川崎のつどい」が開かれました。1980年代後半には、「かわさき女性フォーラム」が開かれていて、メンバーがそれぞれにこれらの活動に参加したことがきっかけです。川崎の男女共同社会をすすめる会（以下、すすめる会）が発足したのは、1985年のことです。当時、女性運動が活発で、さまざまな団体が行政の声かけもあり積極的に連携していました。

#### 現在の活動について

現在では特に非正規雇用の問題を取り上げています。貧困の問題やコロナ禍での女性への影響など、命にかかわる問題だと考えています。働くことが保証されない社会に警鐘を鳴らしていきたいです。

#### 若い世代へのメッセージ

会の設立当時と比べると人々の意識の変化を大きく感じています。著名人の不適切な発言に対して世間から大きな批判が出るなど、認識の変化を感じます。以前は意見を発信することや情報を得ることは簡単ではありません

でしたが、今ではSNSを通じてひとりひとりが大きな発信力を持つようになってきました。情報もすぐに得られるようになりました。しかし、まだ自分の意見を発信することをためらっている人が多いように思います。自分に自信を持って自分らしく生きることが世界を変えるきっかけになると感じています。自分の意見を持ち、相手を尊重しながら、アグレッシブに話し合いを持ってもらいたいです。

そのためにも、まずは自分たちの要求は何か、整理してみたいです。自分たちの生活のなかの問題に気づき、声を上げることが重要です。学校や大学のゼミなどで話し合う機会を設けることもできるでしょう。様々なイベントにも積極的に参加してください。若い世代のみなさんには、問題意識をもって遠慮なく発信して欲しいです。



すくらむ 21 まつりでは展示で活動のPRも行っています。

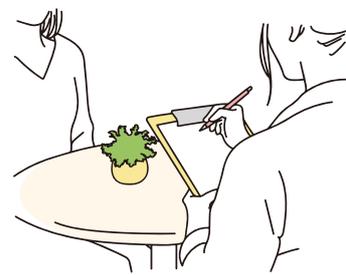
## インターンシッ

長く活動されているすすめる会のみなさまのお話を聞き、このような活動のおかげで今の社会があるのだと改めて実感しました。以前からSNSで政治や差別問題へ声を上げる人を見ってきましたが、どこか他人事のような感じで実感がなく、SNSで自分ひとりが声を上げててもどうにもならないという無力感があり、問題から目を背けてきました。しかし、今回お話を伺い、活動を行うことで人々の意識や社会を変えることができるのだと気付きました。(I.C)

すすめる会のみなさまから、市民活動が盛んだった時代のお話を聞いて、個人でできることには限界があったが、団体だからこそクリアできた問題があったのだと思いました。だからこそ、同じ困難や問題意識を持つ個人の連帯が問題解決に必要であると改めて思いました。このような個人同士の連帯に、すくらむ 21 が果たせる役割があるのではないかとインターンシップを通して考えました。「違う立場で生きる人同士の連帯」というお話から新しい視点を獲得することができました。人権問題は誰にとっても他人事ではないと思います。だからこそ、自分と異なる困難を抱える人への理解や尊重が重要になると思いました。(N.K)

ています。

インタビューを行いました。今回はインタビューの内容を再構成してお届けします。



## 団体名

### ジェンクロス・カワサキ

#### 活動のきっかけ

子どもと一緒にデンマークに留学をしたことがきっかけです。パートナーを日本に残して留学をしていることに対し、日本とデンマークでは反応が違い、カルチャーショックを受けました。また、留学先で旧姓で生活するにあたり困難なこともありました。帰国後、このモヤモヤを子どもたちの世代まで残してはいけないと思い、地元の川崎で仲間を募り活動を開始しました。

#### 現在の活動について

2021年3月に活動をスタートし、現在はイベントの開催を中心に活動しています。ジェンダー平等は自分たちの問題です。まずは身近なところから始めようと思い、地元の川崎で活動しています。川崎市は住んでいる人の平均年齢も若く、ポテンシャルは高いと思いますが、ジェンダー平等に関してはまだまだ達成できていないと感じます。30代の現役世代が活動する団体が川崎にないこともあり、注目してもらえています。活動を通して誰かの心に触れたと感じることができた時にやりがいを感じます。

#### 若い世代へのメッセージ

ジェンダーについて、興味を持って自分から調べ、友人と共有してほしいです。自分ごととしてとらえることが重要です。大人の取り組みに対して違和感や疑問を持つことも大切だと思います。親世代の価値観をそのまま受け入れる前に、立ち止まって考えてみてほしいです。そして、少しでもモヤモヤすることをSNSなどで発信してください。デジタル世代ならではのスピード感をもった活動に期待しています。学生時代は貴重な時間ですから、アクティブに活動して行ってほしいです。



すくらむ21インターン生によるオンライン・インタビューの様子

## プ生からの感想

ジェンクロスさんのお話を聞き、私たちの地域には楽しくジェンダー平等について学ぶ機会が少ないことに気がきました。楽しく学ぶことで、入口が広がり多くの人にとって学びやすくなると思いました。また、実際に社会で働く現役世代の方がモヤモヤを抱えていることを知りました。学生の私は、モヤモヤを感じるものがなく、社会でのジェンダー平等に向けた動きを見聞きすることで、改善されているものだと思っていたので、正直驚きました。だからこそ声を上げることが重要なのだと気がきました。(I.I)

日本のジェンダーギャップ指数の順位などから、日本はジェンダー平等が実現できていない社会である認識がありましたが、数字だけでは正直なところ実感が湧いていませんでした。今回、実際に経験された日本と他の国の違いを伺い、日本のジェンダー平等について見つめ直すことができました。大学で女性運動の歴史などを学んでいますが、講義は固い印象があり、この印象が若者をジェンダー平等の取り組みから遠ざけているのではないかと感じていました。お話にもあったように、楽しく気軽にジェンダー平等について学べる機会が重要だと思いました。(H.N)

## 令和4(2022)年度 協働事業 募集

川崎市男女共同参画センター(愛称:すくらむ21)の協働事業は市民グループ・団体、NPO、事業所等の提案にもとづき、提案団体が普段、活動されている分野での経験を活かしながら、川崎市男女共同参画センターと協働で講座やワークショップ等を実施していく公募・提案型の事業です。広い分野で多くの機会に男女共同参画に触れていただくことで、「男女平等のまち・かわさき」の実現をめざして実施するものです。



### 募集概要

【募集内容】市民参加型の地域づくりを実践しながら男女共同参画を推進する事業企画(ワークショップ、講座、調査研究等)を募集します。テーマの具体例は以下の通りです。

- ・DV/デートDVの予防啓発、被害者への支援
- ・ライフステージに応じた女性のキャリア形成支援(就労継続・再就職・起業等)
- ・職場におけるハラスメント予防と対応
- ・女性の貧困や経済格差、雇用問題の解消の促進
- ・男女がともに子育てに参画できる地域づくり
- ・地域における男女共同参画の視点に立った防災・減災の取り組み
- ・アート(身体表現、舞台、音楽、漫画、映像等)を通じた男女共同参画の啓発
- ・性的マイノリティ、男女共同参画の視点に立った高齢者、障がい者、外国人市民等、特別なニーズを持つ人への支援

### 【事業費】

(タイプA)事業経費補助額5万円～40万円以内(税込み)

(タイプB)事業経費補助なし。センター貸室・備品の先行予約、無償貸与、広報協力による事業支援。

【採択数】タイプA、Bをあわせて6事業程度(応募状況・内容等により採択数は変動することがあります。)

詳細は、ホームページをご覧ください。

### 個別相談

令和4(2022)年2月24日(木)～3月25日(金)

希望者および新規の申請団体の方は、個別相談をお申込みください。

お電話にて相談日時をご予約ください。

TEL:044-813-0808(休館日3/15を除き、9～17時の間で受付。)

個別相談時間は30分程度(原則:1回)。

### 応募期間

令和4(2022)年3月1日(火)～4月1日(金)必着

郵送、電子メールによる送付、またはセンター窓口へ直接持参。

応募用紙は、ホームページよりダウンロード、またはご請求ください。

※×切後の受付はできません。 ※電子データによる(メール添付)提出の場合は、15時まで。

※持参、郵送の場合は、17時必着。

## 「DV被害者など困難な状況にある女性への支援物資の募集」へご協力の御礼

長期化する新型コロナウイルス感染拡大の影響を受け、生活の困窮状況が悪化し、DV被害者やひとり親家庭、自立をめざし生活している若年層においても大変厳しい状況が続いています。川崎市男女共同参画センター（すくらむ21）では、国が主唱する「女性に対する暴力をなくす運動」期間（11月12日から25日まで）にあわせて、DV（ドメスティック・バイオレンス）被害者とその子どもたちをはじめ、経済的に困窮している女性たちへ安心して新たな生活を送ることができるよう、支援物資を募集しました。昨年度に引き続き、団体・事業所等による支援に限り募集させていただきました。ご寄付・ご寄贈品はすべて支援団体を經由して提供させていただきましたので、報告いたします。

今年度は、延べ11の団体から、ご寄付45,000円とご寄贈品を受け取りました。寄付金については、川崎市男女共同参画センターが品物を購入し、緊急避難施設（シェルター）や自立支援施設を通してDV被害者など経済的に困難な状況にある女性や子どもたちへ提供しました。購入品とご寄贈品をあわせて、合計1,430点（段ボール38箱）のご提供をいただきました。寄付・寄贈団体の方には心温まるご支援を頂戴しましたこと、心から御礼申し上げます。



## 女性の活躍を推進している市内企業 「かわさき☆えるぼし」認証企業が83社に！

川崎市では、女性の活躍推進、ワーク・ライフ・バランスを推進するため、働きやすい職場づくりに積極的に取り組んでいる中小企業を「かわさき☆えるぼし」認証企業として認証し支援しています。

今年度は44社を認証し昨年度の認証企業と合わせて83社になりました。

認証企業83社の一覧は、川崎市ホームページを御覧ください。

<https://www.city.kawasaki.jp/250/page/0000123776.html>

認証企業一覧  
QRコード



### 令和4年度も認証企業を募集します！皆さまも認証企業に仲間入りしてみませんか？

①対象 常時雇用従業員の数300人以下で、川崎市内に事業所又は事務所を有する企業等

②認証期間 3年間（2年間から3年間に変更になりました。）

②認証取得によるメリット

- ・認証マークを名刺等や企業ホームページで使用できるなど、「かわさき☆えるぼし」認証企業であることのPR
- ・川崎市ホームページ等での取組紹介
- ・人材確保支援（就職説明会等における参加優先枠の利用）
- ・公共調達の入札等において利用する主観評価項目点の付与



事例集で企業のPRも！  
（令和4年2月末発行）

【問合せ】川崎市市民文化局人権・男女共同参画室  
TEL:044-200-2300 FAX:044-200-3914

かわさき☆えるぼし

検索

## 避難所のボランティア体験から学んだこと

今から約18年前、新潟中越地震の小学校の避難所体育館は、寝具を畳んだものが唯一間仕切りになっている中に衣類等が雑然と置かれ、その間にストーブがあり、横になっている人の姿もありました。そんな中を走り回る子ども達にひやひやしました。体育館壁面の下の窓からは隙間風が吹き込み半端ない寒さ。避難者の女性たちから、①安心して着替える場所が欲しい②隙間風を何とかしてほしい③トイレが少ない(仮設トイレ等がなかったため)などの声がありました。

早速、女性からの要望の多かった更衣室を板段ボールで電話ボックスをイメージしました。中には着替えや物を置く台を取付け、扉には【使用中】の札を下げたところ大好評。隙間風を防ぐため壁面の窓には新聞紙を張り、床には段ボールを敷いて住環境の改善を図り、ストーブ近くの可燃物の整理整頓を行いました。(今では考えられませんが)トイレについては、校庭の隅に穴を掘り椅子とパイプとシートを使い仮設トイレを設営しました。

それから約8年後の東日本大震災の被災地を訪れると、避難人員が多く体育館と教室を含め学校を避難所として開放している状況でした。段ボールを使った間仕切りはちょうど座った高さで、まだプライバシーの確保まではできておらず、通路も狭く雑然とした様子はあまり変わっていませんでした。

ここでの要望は、①(特に高齢女性から)話を聴いて欲しい

②(生理用品・下着等の)支援物品について③住環境の整備などが寄せられました。①については、避難所生活が長引くほど体験を共有して欲しいという心理が働くようでした。女性からは必要な衛生用品の配布も含め同性にやって欲しいという要望が多くあり、通路や間仕切りへの要望は中越地震と同様でした。その避難所では視界からのプライバシー保護のため間仕切りを作成し環境を改善しました。

それから約5年後の熊本地震で訪れた避難所では、段ボールのベットと段ボールの柱、間仕切りのカーテンが設置され、通路も整然とし、プライバシーの保護についてもだいぶ進化していました。ここでの要望は、①防犯と掃除のしやすさを理由に間仕切りのカーテンの丈詰め②予算の関係でコンビニ弁当が多くなっていたので、支援食事への要望③洗濯物干しについてでした。この時、初めて女性専用の洗濯物干し場が欲しいとの要望がありました。

避難所を訪れたボランティア経験者として、避難所運営に多くの女性がスタッフとして参加することが必要不可欠だと感じています。一人ひとりが「被災者であり運営者」として積極的に関わることで女性の悩みや抱える困難に寄り添いながら安全な環境づくりが可能になると思います。



女性の視点でつくる  
かわさき防災プロジェクト(通称:JKB)



実話に基づくストーリーでLGBTQ+やフェミニズムについて分かりやすく紹介している『パレットーク』の副編集長である伊藤まりさんより、若い世代は何に関心があって何を考えているのか、若い世代のおひとりとして、コラムにて届けていただきます。

## 国際女性デー

### 異なる〈私〉たちが、共に声を上げるために

24 すくらむコラム

3月8日の国際女性デーは近年、非常に多くの人に認知される記念日となりました。思い返せばここ数年、世界でも日本でもフェミニズムに関するムーブメントが本当に増えてきたと感じます。1人のフェミニストとして世界中のフェミニストに敬意と連帯の気持ちでいっぱいです。

とくに2017年頃から世界中で大きな盛り上がりを見せた#MeToo運動は、多くの性暴力を可視化しました。#MeToo運動を通して「自分の被害は偶然の災難などではなく、社会構造の問題だったんだ」と気づいた人も多いでしょう。これは「個人的なことは政治的なこと」というフェミニズムの有名なスローガンと重なります。SNSを通じたフェミニズムの実践が増えてきて、〈私の声〉をガツンと社会に届けられることは非常にエンパワリングな経験。しかし今、さらにフェミニズムが向き合うべきなのは「その〈私〉とは、いったい誰?」という問いかもしれません。

たとえば私は、コーヒーと映画が好きです。猫アレルギーですが、猫も好きです。私の本棚は読みたいと思っている本で埋まっています。もう少し社会的なことと言えば、私は生まれたときに割り当てられた性別と性自認が一致していて、異性愛の女性です。また、日本国籍を持ち、今日寝るベッドが確保できています。1つひとつの要素が複雑に絡み合って〈私〉は〈私〉として生きています。

一方で、私がフェミニストとして連帯する人たちの中には、私とは異なる状況に置かれている女性があります。トランスジェンダーの女性、同性を愛する女性もいます。経済的に困窮する女性、民族的背景や職業への偏見に苦しめられている人もいます。そして当然、男性1人ひとりも…。

「誰1人として同じ人間はいない」と言ってしまうと当たり前のような気もしますが、フェミニズムにとってこれは案外、難題です。〈私〉と〈あなた〉の複雑さに注目することは、「ただ抑圧されるだけでなく、同時に誰かを抑圧する可能性を持っている」と自覚することでもあるからです。これは、フェミニズムが運動の歴史を通して批判され、学び、実践してきたことです。

誰として同じ〈私〉はいないから、〈私〉が〈誰か〉を傷つけてしまう可能性はいつもある。しかし、異なる〈私〉たちだからこそ、より大きな力で社会を変えていけるかもしれない。そんな希望を捨てることなく、性差別のない社会を望むすべての仲間たちと、国際女性デーを祝いたいと思います。



伊藤まり (パレットーク副編集長)

1993年東京生まれ。早稲田大学卒業。編集ライター。大学在学中よりフェミニズム活動に参加し、署名活動やパフォーマンス、レクチャーなどを行う。ウェブメディア「パレットーク」副編集長をつとめる傍ら、ジェンダーやフェミニズムに関しての執筆や講演を行う。





## BOOKS



2021年6月発行  
(著者) ゆざきさかおみ  
(出版社) KADOKAWA

### 『作りたい女と食いたい女』

このマンガはシスターフッド × ご飯 × GL (ガールズラブ) というジャンルである。

タイトル通り、作りたい女(野本さん)と食いたい女(春日さん)が、大量のご飯を作り、食べるという内容だが、至るところに女性の生きづらさが描かれている。女性の中でもマイノリティである、レズビアン生きづらさにも触れている。

本作品は「野本さんと春日さんの二人のレズビアンの話」と作者が明言しており、二巻では、レズビアンという言葉もすっかり出てくる。それがなければ、友情と認識する人も多いだろう。それほど同性愛者の存在は見えづらい。

一巻でもこんなエピソードがある。

野本さんが、親と電話で話した際に「休日に会うような男性ができたの?」と聞かれ「女の人だよ」と答える。春日さんのことを話そうとしたが「なんだ、ただ友達と会うだけか」と言われてしまい、電話を切られてしまうというものだ。

このような発言は日常的によく聞かすが、そこでは同性愛者は居ないものとされてしまう。

ただ料理を作るだけではなく、このような話題や女性差別も、毎回テーマとなっており、共感できることも多い。日常的に差別にもやもやしていても、周りそれを共有できない方に、ぜひ読んでいただきたい。



2021年8月発行  
(著者) 松本俊彦  
(出版社) 河出書房新社

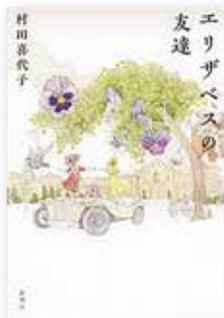
### 『世界一やさしい依存症入門』

薬物、市販薬、ゲーム、SNS、ギャンブル、リストカット…少し考えたただけでもいくつも身近な依存症の例があり、本書にもこれらに依存したごく普通の中学生たちが登場する。ゲームに依存した男子学生は、教育熱心な親の期待に応えようと必死に爪先立ちの生活を送ってきた。しかし、名門中学への入学を機に落ちこぼれ、その現実から目を背けるように自分が主人公になれるゲームの世界に没頭していく。次第に課金を重ね、親に暴力を振るうようになっていき…。

本書を読む前、私は依存症とは何かにハマりやすい人になる孤独な病気というイメージがあった。このイメージは表層的なものに過ぎず、依存症は誰もがなりうる「病気」なのだとして強く感じた。他の病気と同じ

く、誰もがなりうる可能性がある。だから、なることが悪いのではない、予防すること、そして、周りの人が依存症になった時には救いの手を差し伸べることが大切である。著者も作中、依存症とは「人に依存できない病」と形容している。彼らは人に頼れず、ひとりでもがいている。

「世界一やさしい」のタイトルに偽りなく、具体例が多く非常に読みやすい。「困った子は困っている子かもしれない」そう考える人が増えたならきっと日本は生きやすい国になる—そんな優しくも強い著者の願いが伝わる。読み終わった時には、気持ちがずっと軽く、周りの人により少しやさしくなれる本である。おすすめの一冊。



2018年10月発行  
(著者) 村田喜代子  
(出版社) 新潮社

### 『エリザベスの友達』

2年ぶりに、実家に帰省した。認知症の症状がある父は昔の話を繰り返す。2年前も同じように昔の話をしていたが、今回はさらに時代が遡り、18歳の時の冒険談を繰り返し語っていた。

この作品の主人公、初音さんは97歳。私の父と同じく認知症を抱え、老人ホームで暮らしている。訪ねてくる娘たちをいぶかしげな目で見、夕方になるとどこかへ帰ろうとする。

だが、初音さんの内側は20歳。昭和14年から8年暮らした天津租界での華やかな記憶で満たされている。なかでも皇帝溥儀の妻、婉容の記憶は伝聞と入り混じり、繰り返し初音さんの世界に現れる。「エリザベス」というイングリッシュ・ネームを持つ婉容

に、初音さんは自身を重ねていく。

「認知症は自由ですよ」と作中の若い介護士は言う。いつの時代のどこにでも、好きな場所にいていいのだ。「良い介護とは人生の終幕の、そのお年寄りの夢を守ってあげること」と話すベテラン看護師。この作品には、介護される側への「やさしさ」がにじみでている。

今を生きていくための近い記憶は忘れ、遠い昔の出来事だけを覚えていえる。見ている側はせつないけれど、本人は幸せな時代を生きている、と思うと見方も変わってくる。

老いていくこと、介護することは大変なこと、という先入観を変えてくれる心温まる小説である。



## パパが定時に帰る意味

今年は男性の育休制度\*が大きく変わり、今後育休取得率はますます上がっていくことと思います。一方でママたちの声として、「育休で満足せずその後もちゃんと定時に帰ってきてほしい」というのがあります。すでに育休をとって体験したパパは納得いただけると思います。家事育児をママと分担することはもちろんですが、定時に帰ることはママのためだけでもないのでは、というお話です。

Dパパ家、次女が生まれてもう少して1年が経とうという頃のこと。哺乳瓶を手放して以来夜泣きなんてついぞなかった3歳の長女が夜中に突然泣き出すようになりました。その泣きっぷりたるや壮絶で、寝静まった真夜中に突然前置きなくトップギヤで「絶叫」です。手足をバタバタさせて「いやー!」と泣き叫びます。せっかく寝ていた次女もびっくりして泣き出し、一家でパニック。なにもできず茫然としていると、10分くらいで勝手に収まります。そして本人にその記憶はありません。

落ち着いてから調べてみると、どうも『夜驚』というもののっぽく、幼児期によくあることなのだとか。ネット知識ですが、うれしかったことも怖かったことも、とにかく負荷がかかると出るようです。そこまで調べてパパ、思い当たる節ありました。次女が1歳に近づき、つかまり立ちしだすとどうしても親の注意はそちらに向きます。「抱っこして」の要求も増え、手間もかかります。言葉が通じる長女には「早く食べて」「早くお風呂はいつ」「早くお風呂出て」「早く寝て」「早く起きて」「早く着替えて」「ほら、保育園行くよ」。ずっと「早く早く」しか言っていないと気づきました。

パパ、早く帰ることにしました。やはりお迎えは難しいのですが、お夕飯から参加。長女の食事が進んでなかったら「ほらおいしいよ」と食べさせ、お風呂に入り

着替えを手伝いながら、寝つくまで一緒にいます。こどもの相手をする合間に妻から今日あったことをききます。そうすると長女も「そうなの、転んでいたかったの」など合いの手をいれてきます。それが小さいながらカウンセリングの効果を果たしたのか定かではありませんが、以来びたりと『夜驚』はなくなりました。また、それほど急かさなくても次の行動に移ってくれ、寝起きも格段によくなりました。

医師の診断を受けたわけではないので本当に医学的などころでいう『夜驚症』だったかは定かではありません。それでもパパが早く帰ることがプラスに働いたことだけは確かかなと思いました。

※ 令和3年6月に育児・介護休業法が改正され、子どもの出生直後の時期における柔軟な育児休業の枠組みが創設されました。令和4年4月1日より段階的に施行されます。



## イキメン研究所とは？

「男女共同参画」って、女性の問題に捉えられがちです。でも、男性たちが地域や家庭で“活躍”することも、とっても大切なことなんです。

すくらむ21では、男性を対象とした事業を「イキメン研究所」としてくり、男性が地域へのデビューになりうる契機(第一子誕生)をとらえての事業展開を行っています。

イキメン研究所の詳細については、<https://www.scrum21.or.jp/welfare/ikimen/> をご覧ください。

6/26 (日) 10:30 ~ 15:30 開催 第18回 すくらむ 21 まつり

「男女共同参画週間」にあわせ、2022年6月26日(日)に第18回すくらむ21まつりを開催します。  
開催にあたり、次の4つのカテゴリーで出店者・出演者を募集しました。

カテゴリー

- ①ホールステージ出演者(午前中) ②屋内イベント出展団体
- ③すくらむ21マルシェ(軒下・屋内) ④ホール司会



すくらむ21まつり(午後)ホールステージ主催企画

「女性への暴力を断ち切ろう Break the Chain ダンス」

● Break the Chain ダンス(以下 BTC ダンス)とは...

女性の暴力防止キャンペーンのテーマダンスです。女性の権利向上を求めて10億人に立ち上がろうと呼びかける One Billion Rising 運動の一環として、世界各地で踊られています。

● BTC ダンスを踊るわけ

- ・暴力被害のサバイバーが、自分の身体や感情は自分のものだ実感するために
- ・暴力は許さないという意味を示すために
- ・踊りを見た人にも、コロナ禍を乗り越えていく力を与えるために
- ・イベント等が中止となり、踊る機会が減ったダンサーたちの表現の場のために

出展・出演者情報その他、詳細はすくらむ21ホームページにてご確認ください。

出店者募集

2022年度 すくらむ21 プチマルシェ

自分で作ったものを販売し、お客様の反応を直接確かめてみたい、他の女性起業家さんとの協業のチャンスを探したいなど、実践の場として月1回の定期販売でPRしてみませんか。

募集内容：手作り品の販売・調理品(加熱したもの、衛生許可が下りたもののみ)の販売等

応募資格：①女性起業家及び起業準備中の市内在住・在勤の女性

②手づくりの作品販売や地域で活躍できる場を求める市内在住・在勤の女性

応募締切：2022年3月31日(日)(メール提出、直接持参ともに17時必着)

応募方法：応募用紙に必要事項を記載し、メール添付・郵送・直接窓口持参のいずれか。

書類選考の上、出店者を決定します。詳細はホームページにてご確認ください。



かわさきの男女共同参画情報誌

すくらむ

発行年月 令和4(2022)年3月  
編集・発行 川崎市男女共同参画センター(すくらむ21)  
所在地 〒213-0001  
川崎市高津区溝口2丁目20番1号  
ホームページ <https://www.scrum21.or.jp/>  
電話 044-813-0808  
FAX 044-813-0864



植物油インキ(植物油、または植物油を原料としたエステルを一定の割合以上含まれたインキ(インク))を使用しています。